巻頭言

学会 e-mail システムに期待する

企画理事　石川　宏

現在，当学会においては，ソサイエティ制発足に向け，着々と準備が進められている．ソサイエティ制においては，会員はいずれかのソサイエティに所属し，そのソサイエティを中心として学会活動が行われる．従来に比べ，より学会が会員に近くなり，自由で幅広い活動が期待できる．最近はやりの言葉でいえば，学会における“規制緩和”である．

自由な活動が保証される一方，今まで事務局にお世話になっていた，さまざまな雑務を会員自らの手で，こなす必要性も高くなってくる．学会は本来，会員相互のボランティア活動によるところが大であるから，当然のことではあるが，そのための基本的な情報交換のツール整備を同時に行う必要がある．

ところで最近，コンピュータネットワークの進歩は目覚しいものがあり，特に“インタネット”が広く研究者の間で使われるようになってきた．インタネットは，ローカルエリアネットワーク（LAN）のように，独立に管理運営されているネットワークを，お互いに接続し，あたかも，一つのネットワークのように動かすものである．世界で既に100万台のコンピュータ，1,000万を越える利用者がインタネット上で相互に接続され，お互いに電子メールのやり取りや，コンピュータやデータベースの遠隔利用が行われている．ソサイエティ制移行に際しては，会員相互の，あるいは事務局と会員の情報交換のツールとしてこのインタネットを，導入したいとの，声が高まった．

当学会の75周年事業として，学会の事務OA化を進めることとし，企画理事を中心に事務OA化作業部会が，昨年から発足していた．この作業部会において学会におけるインタネットによるe-mailシステムの導入について具体化を進めた結果，この12月1日から，利用可能になったところである．

このシステムは，学会内にLANと，e-mailノードをおき，インタネットに接続している．学会事務局の事業部ごとに，e-mailアドレスを付与しており，会員とのメールのやり取りができる．（詳細は，本誌11月号の会告参照．問合せ用のアドレスは，office@ieice.or.jp）

当面は，事務局内の端末の台数の制約，維持管理体制などのため，FAX代わりの使い方となるが，今後さまざまな使い方を期待している．例えば論文投稿の電子化，学会活動のデータベースサービス，出版物の申込み，大会，研究会の申込み，会議の案内など．

取りあえず，基盤ができたばかりで，よちよち歩きであるが，会員の皆様のアイデアにより，このシステムの発展を期待している．終りに，このシステム導入に際し，御協力頂いた方々に，紙面を借りて，お礼申し上げる次第である．